エフェソ１：３－１４「ホーリネス・マニフェスト」

天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。

はじめに

エフェソの信徒への手紙の冒頭部分は、人類の聖化という神の遠大なご計画が簡潔明瞭に示されております。簡潔明瞭に示されているという意味で、これをマニフェスト、ホーリネス・マニフェストと言い得るでしょう。わたしたちの永遠の運命が、このマニフェストのうちに決せられておる、ということが出来ます。ここに示されている真理を、わたしたちが人生の土台とするならば、わたしたちは永遠の盤石不動の安心と立命を得ることになります。

１　神の御心

「神の御心によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロから、エフェソにいる聖なる者たち、キリスト・イエスお信ずる人たちへ」（１：１）

神の御心であります。

宇宙には、二種類の意志があります。人の意志と、神の意志であります。

わたしたちの人生の現実というのは、この人の意志と、この神の意志との間に宙ぶらりんにぶらさがって、ゆれ動いているのであります。

ゆれ動いているというのは、こういうことです。わたしたちにはいつも、神からの呼びかけ、神からの召し出し、神からの招きがやってまいります。「おまえは神の意志を受け入れ、従いなさい」という神の呼びかけであります。それがやって来る。その一方で、わたしたちにはいつも、誘惑がやって来る。「おまえは神の意志を退けて、自分の意志で好きなようにやるべきだ」という誘惑であります。

わたしたちの人生の現実は、いつでもこの二つの間の選択であります。神の意志を選ぶのか、人の意志を選ぶのか。どっちを選ぶべきだろう？

わたしたちは、最初の人アダムがエデンの園でやったように、人の意志を選ぶことができます。わたしたちは第二のアダム、主イエス・キリストが荒野においてなさったように、神の意志を選ぶこともできます。いまこの瞬間が、わたしたち一人一人にとって、選択の瞬間なのであります。

使徒パウロは、自分の人生において神の意志を受け入れ、神の御心に対して「アーメン」と応答した人です。わたしたちがする応答は、何でありましょうか？

２　聖なる者たち

人生において神の意志を受け入れた人たち。神の御心に「アーメン」と応答した人たちを、神は聖なる者としてくださいます。

神は、人々と約束を結ぶことを通して、約束を通して人々をご自分のもとに集めなすって、これを聖なる人々、神の民となさいます。

神の約束。神の約束は、三つの要素からなっております。神の約束の三つ要素とは、第一、召命。第二、応答。第三、賜物であります。

族長アブラハムは、神から「わたしが指し示す地に行きなさい」という召命を受けました。これが第一の召命であります。

この召命に対して、アブラハムは応答いたしました。召しに従って旅立ったのです。これが第二の応答であります。

応答したアブラハムに対して、神は賜物を豊かにお与えになりました。約束の地においてあなたの子孫は天の星、海の砂のように増え広がる、という祝福であります。この祝福は、イサクの誕生よって始まります。これが第三の賜物であります。

召命と応答と賜物という三つの要素は、新しい約束、新約においても見られるものであります。

すなわち、神は御子イエス・キリストを通してわたしたちを救いに招いてくださいました。これが第一の召命であります。

わたしたちは、救いへの招きに対して、信仰をもって応答いたします。「アーメン。確かにイエス様がわたしのために十字架にかかり三日目にみがえってくださったことを信じます」と応答する。これが第二の応答であります。

応答した者たちに、神は賜物を豊かにお与えくださいます。すなわち、天のあらゆる霊的な祝福を与えてくださいます。エフェソ書１章３節に「神は、わたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました」とある通りです。この祝福は、わたしたちの罪が完全に赦されることから始まります。エフェソ書１章７節に「わたしたちはこの御子において、その血よって贖われ、罪を赦されました」とある通りです。罪の赦しは、天にあるもろもろの霊的な祝福の最初のはじめのはじめであります。これが賜物。第一の召命、第二の応答に対する、第三の賜物であります。

神は今日いまこの瞬間も、わたしたちを招いていたもう。キリスト・イエスを通して啓示された神の御心をわたしたちが受け入れるようにと、招いていたもう。招きに応答する者たちに、罪の完全な赦しから始まるもろもろの賜物を与えようと、待ち構えて、待っていたもう。

わたしたちが「アーメン」と応答するなら、わたしたちは賜物を受け、神の民とされ、聖なる者たちとされるのです。

３　キリストにおいて

「神は、わたしたちを、キリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました」（１：３）

キリストにおいて、であります。

「キリストにおいて」という言葉は、パウロが手紙の中で多用している、パウロに特徴的な表現です。聖書学者は「キリストにおいて」の「おいて」という言葉を「パウロの神秘的な『おいて』」と呼んでいます。

この表現は、わたしたちキリストを信じる者が、超自然的な仕方でもってキリストご自身としっかり結びつけられるのだ、ということを表しています。

信者とキリストとの超自然的な結合。それは「主とひとつになる」ことだ、と言われております。主イエス・キリストが、わたしたちの存在、わたしたちの生命、わたしたちが生きてあること、わたしたちの人生をまるまる全部、キリストご自身のものとしてくださるという。これであります。同時に、わたしたちが、キリストの存在、キリストの生命、キリストが生きて働かれること、キリストそのものをまるまる全部、わたしたちのものとするという。これであります。

かくして、わたしたちの人生の資源、わたしたちの人生の力の源は全部これキリストであります。わたしたちのすべての言葉、わたしたちのすべての思い、わたしたちのすべての動きが、キリストによって動機づけられ、キリストによって形作られ、キリストによって力づけられ、キリストによって解き放たれるのです。わたしのうちにいましたもうキリスト、わたしをまったく所有したもうキリストが、キリストをとおして、キリストの力により、わたしを持ち運んでくださいます。

こうしてわたしたちは「キリストに似た者」となるのです。エフェソ書１章５節に「イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになった」と言われているとおりです。

しかし、わたしたちが「キリストに似た者」になるということは、無意識のうちに自動的になる、というものではありません。

わたしたちは、わたしたちのうちにいますキリストの御霊に対して日々、瞬間瞬間、従順であるよう求められています。エフェソ書１章１節のＴＥＶ第３版に、「あなたがたのうちにあるキリストのいのちに対して従順である人たち」と言われているとおりです。聖なる者たちとは、「わたしのうちにいますキリストのいのちに対して、いつも従順でいよう」という生き方を選ぶ人たち。日々、絶えず、瞬間瞬間、それを選ぶ人たちであります。

わたしたちは、人生のあらゆる場面において、「わたしのうちにいますキリスト」に対して、いつでも「はい、イエス様、はい」と従って行きたいものであります。

４　恵みを祝福にする

「恵みと平和が、あなたがたにあるように」（１：２）

恵み、であります。

恵みというのは、神様の愛が実体化したものです。神様の愛は、わたしたちにめがけて届いてまいります。すべての人に届いてまいります。その愛は、けっしてやむことなく、けっしておとろえることがありません。神はいつでも、ご自分の心のすべてを、わたしたちの上に注ぎだしていたもう。それが「恵み」であります。恵みから漏れる人は、ひとりもおりません。

このように、すべての人が神様から「恵み」をいただいているにもかかわらず、しかもなお、すべての人が恵みを恵みとして自覚しているわけではありません。多くの人は、恵みを受けていることをまったく自覚しておりません。多くの人は、恵みというものがあること自体に気づいてさえおりません。

神の恵みが、御子イエス・キリストというかたちを取ってベツレヘムの馬小屋の飼葉桶においでくださったことを、多くの人は知らないでおります。

神の恵みが、御子イエス・キリストを通して働いて、わたしたちの罪を赦し、わたしたちを新しく生まれさせ、わたしたちを義とし、わたしたちに神の子の身分を与え、わたしたちをきよめて聖なる者にする。そういう神の恵みが、いまわたしたちの目の前に、手を伸ばせばすぐ触れられるほどすぐそばに備えられているのに、多くの人はそれを知らないでおります。

しかし、ひとたび神の恵みを知ったならば、わたしたちの心は不思議なあたたかさで満たされます。続いて、平安の感覚、喜びの感覚、愛されているという実感が、やってまいります。

ずっと気づかないでいた神の恵みが、いまや祝福として、わたしたちの人生の体験の真ん中にしっかりと受け取られるのです。

気づかないでいた神の恵みが、一瞬にして祝福となって、わたしたちの体験の中に入ってまいります。何がそうさせるのでしょうか？　イエスを信じる信仰。イエスを救い主と信じ、イエスをきよめ主と信じる信仰が、そうさせるのです。

信仰の目を大きく開きましょう。わたしたちの罪を赦し、新生させ、義とし、

神の子とし、きよめてくださる神の恵みを、目を大きく開いて、しっかり見つめましょう。恵みがしっかり認識されますと、それは祝福となって、わたしたちの人生の体験の中に入ってまいります。

５　天の祝福

天の祝福であります。

天ということに対して、わたしたちの人生は、地上に深く根をおろしております。わたしたちの人生を動かしている力。それは、地上的な願望であり、地上的な欲望です。

わたしたちの希望、わたしたちの夢、わたしたちの将来は、どれもみな地上という狭い範囲の中にあるものばっかりです。地上的な願望、地上的な欲望は、どれもみな好き勝手に動くので、わたしたちは引っ張りまわされ、わたしたちの人生はばらばらの断片に分解されてしまいます。土の器がもろく、壊れやすいように、わたしたちの人生は、もろすぎて、永遠に続けて行くことが不可能です。

だから目を上げて天を見るように、と使徒パウロは言うのです。天には、わたしたちのために備えられた霊のもろもろの祝福があります。

だれが、これら、もろもろの霊的な祝福の所有者でしょうか？　第一義的には神ご自身が、もろもろの霊的祝福の所有者であられます。

しかし神は、御子イエス・キリストを通して、神ご自身をわたしたち人類に結び合わせてくださいました。キリスト・イエスにあって神と結び合わされているわたしたちは、神の子とされているのです。

それゆえ、第二義的は、もろもろの霊的祝福の所有者は、キリストに結ばれたわたしたち。わたしたちのものであります。わたしたちがキリストに結ばれているなら、もろもろの霊的な祝福はすべて、わたしたちのものです。

６　よろこび

わたしたちの人生における喜び、究極の喜びは、何でありましょうか？

わたしたちの人生における究極の喜び。それは、神の喜びの中にあります。神こそが、わたしたちの人生の究極の目的だからであります。

神の喜びとは、何でありましょうか？　エフェソ書１章５節のＴＥＶ第３版に、「神は、わたしたちをイエス・キリストによって神の子どもたちにしようと、前もってお定めになりました。それこそが、神の喜びであり目的だからです」とあるとおりです。

わたしたちが神の子どもたちとなること。それこそが、神の究極的な喜びであります。神はわたしたちをご自分の子とし、神はわたしたちと交わりを持つことを熱望していたもう。神にとっての最高の喜びは、わたしたちと交わりを持つことです。

神はご自分の喜びを実現するために、御子を人として受肉させ、御子イエス・キリストにおいて神ご自身を全人類に結び合せてくださいました。わたしたちは、神の子どもなるようにと、神によって招かれています。わたしたちがこの招きに応答するとき、わたしたちは変えられて、キリストに似た者とされます。わたしたちは、神の息子たち、神の娘たちとされるのです。そうなることが、神の究極の喜びであります。

そうなるようにと、神は前もってあらかじめ定めてくださいました。わたしたちがきよめられること。これは、人間の側から始まったことではありません。神が、神の喜びをもっておはじめになったことです。わたしたちの救いは、喜びをもって神がおはじめくださったことです。わたしたちのきよめは、喜びをもって神がおはじめくださったことです。わたしたちのクリスチャンとしての歩みは、わたしたちの側から始まったものではありません。神が、神の喜びをもっておはじめになったことです。

神は、神の喜びを、神ご自身の主権をもって必ず実現なさることがおできになります。救いの動力は、わたしたちの中にありません。救いの動力は、神の喜びの中にあります。きよめの動力は、わたしたちの中にありません。きよめの動力は、神の喜びの中にあります。クリスチャンとしての歩みの動力は、わたしたちの中にはありません。わたしたちの歩みの動力は、神の喜びの中にあります。

ですから、わたしたちの信仰は、もがくことではなく、神の喜びの中に、まったく自分をゆだねることによるのです。

天地創造のはじめに、神の喜びがありました。神の喜びは、神と共にありました。神の喜びとは、わたしたち、ほかでもない、このわたしたちが、今日ここにいるわたしたちが、神の子どもとなること、神の息子たち、神の娘たちとなることであります。

それを実現するための手だてを、神はもう完全に備えておいでです。十字架につけられ復活された御子イエス・キリストであります。この神の喜びの中に、わたしたちは今日、自分をまったくおゆだねするべきであります。祈りましょう。